

貝の砂もぐり競争

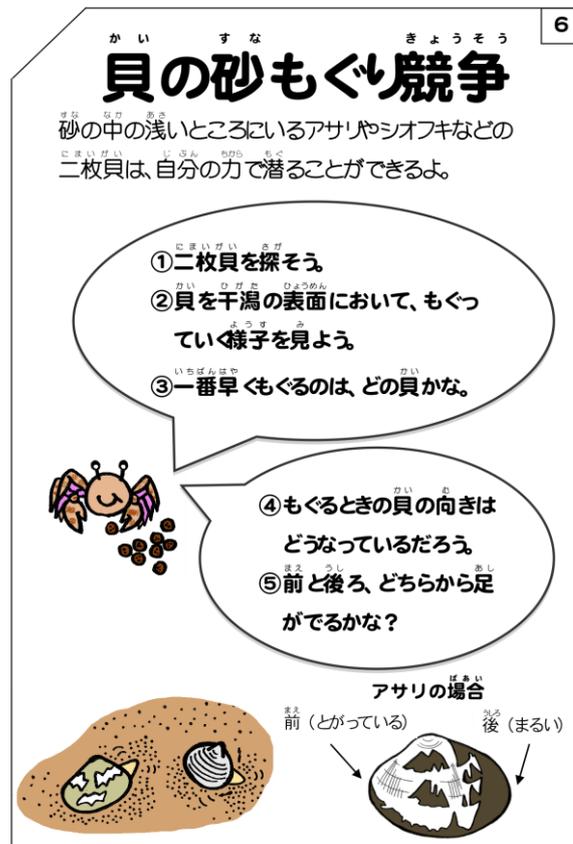
1. ねらい

・砂の中に潜ろうとする二枚貝の生態や動きを楽しみながら観察してもらおう。

参考 掘り出した二枚貝は一見すると、動きがないように見えるが、本来のすみかである砂の中に潜る動きは躍動感があり、親しみを感じてもらいやすい。生きものを採集する『干潟の生きもの観察①②』の後に行い、干潟の生きものが身を守るために砂の中に隠れることを実感してもらうことができる。

2. 概要

○所要時間	30分
○時期	通年 干潮時
○場所	砂地の干潟(貝を掘り出した場所 で実施すると貝が潜りやすい)
○対象	小学校低学年以上
○人数	基本的に問わないが、採集道具の数を考慮する。
○資材	スコップ、バケツ
○事前・事後学習	干潟にすむ二枚貝の種類や特徴を図鑑等で調べる。
○応用	二枚貝以外の、干潟の砂や泥の中にすむ生きもので実施する。
○安全管理	夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。



3. 実施の手順

※『干潟の生きもの観察①②』の後に、この活動を行う場合は、展開部からの開始となる。

導入(5分)

- ・干潟の砂の中に様々な種類の貝がいることを伝え、どのような種類の貝がいるのか掘りだして調べてみよう、と参加者に投げかける。
- ・人数が多いときは班に分かれ、スコップ、バケツを配布する。
- ・『干潟の生きもの追跡』のたいけんカードで二枚貝の穴の特徴を説明する。
- ・危険生物や危険箇所等の注意事項、集合時間と集合場所、活動範囲を伝える。

展開(15分)

- ・貝を砂の上に置くとどうなるだろうか、と投げかけ、砂に潜るところを観察してもらおう。
- ・次に、どの貝が一番早く潜るかを競う、砂もぐり競争をしよう、と投げかける。
- ・各自1つ貝を持ち寄り、班内で競争してもらおう。

まとめ(10分)

- ・競争が終わったら集合し、貝が潜る様子を観察したときの感想を発表してもらおう。
- ・潜る様子を見て気づいたことを参加者に発表してもらい、全体で共有する。
貝がどのようにして砂の中に潜っていったか、潜るときには貝の前と後のどちらから足が出て潜っていったのかを問う。

4. 指導のポイント

・適切な活動日と活動時間を選び、下見をして二枚貝が採れる場所を把握しておく

潮汐時間や二枚貝の生息状況によって採集できない場合があるので、活動日を選んで下見を行う。活動日は、潮がよく引く大潮(新月と満月の日)のころを選び、干潮時間の2時間ほど前に干潟に入る。また、活動日の潮汐に近い日(活動日の約2週間前等)に下見を行い、二枚貝がよく採れる場所を把握しておく。

・貝の種類を見る

アサリ、シオフキ、マテガイ等は干潟の表面に置くと砂に潜るが、オキシジミやオオノガイ、ソトオリガイ等※は自分で潜ろうとしないので、実施する前にどのような種類の貝がいるのか把握しておく。

※これらの貝は、観察が終わったら元の場所に戻して、そっと埋める。

・採集は適切な場所で行う

漁業権が設定されているところでは、無許可で採集をすると密猟になるので注意する。漁業権が設定されていないところでは自由に採ることができるが、マナーを守って活動する。